

## 令和5年度 第1回田原市図書館協議会議事録

日時：令和5年5月23日 午後2時～午後4時

場所：田原文化会館204会議室

出席者：協議会委員8名

（河合、本田、渡邊、一ツ田、内浦、小澤、北原、永田）

事務局2名（是住、宮嶋）

### 議事内容

- ・開会
- ・館長あいさつ
- ・新任委員紹介
- ・委員長の選出
- ・協議
  - 1) 前回の議事録の確認について
  - 2) ・令和4年度田原市図書館事業評価（案）について
    - ・令和5年度田原市図書館事業計画（案）について
  - 3) その他
- ・その他

事務局：本日は、お忙しいところ、ご出席くださいますて、ありがとうございます。家禰委員から欠席の連絡をいただきました。ただいまの出席委員は8名であります。過半数に達していますので、令和5年度第1回田原市図書館協議会は成立いたしました。これより開会いたします。では、開会にあたり館長から挨拶をお願いします。

館長：みなさまこんにちは。本日はお忙しい中、協議会へご出席いただきありがとうございます。ゴールデンウィーク明けから、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行となり、図書館もカウンターのパーテーションが撤去され、利用者さんからはすっきりしたねと声をかけていただくようになりました。思い返せば、3年前に急ごしらえのフィルムを設置してから、こんなに長期間、このような状態が続くとは想像もしていませんでした。コロナ禍を経て、オンライン化への対応など、急激に対応が進んで便利になった面もありましたが、リアルな交流の場所の大切さも再認識したように思います。3年間ほど図書館も思うように活動が出来ませんでした。今年度からは、よりアクティブに図書館サービス

を展開していきたいと思います。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、新任委員の紹介をさせていただきます。令和5年4月1日の人事異動等により鈴木美保委員の後任として、令和5年4月12日付けで新たに委員の方1名が任命されました。任期は、前任者の残任期間である令和6年11月30日までです。ご紹介いたします。鈴木美保委員の後任として、衣笠小学校の河合 祐先生です。では、一言挨拶をお願いします。

河 合：衣笠小学校の河合でございます。前任は豊橋市の磯部小学校で、教員の研修担当、それも図書館でお世話になっていて、豊橋市の図書館協議会の委員もやらせていただいていた。また、田原にも戻ってきて図書館の担当になってご縁があるなど思っています。よろしくお願いします。

事務局：ありがとうございます。ここからは副委員長である内浦委員に議事の進行をお願いします。

副委員長：それでは、委員長の選出について、議題といたします。田原市図書館の管理運営に関する規則第20条の規定により、委員長は、委員の互選により選出するとなっています。  
ご意見ございませんか。

委 員：河合委員が適任だと思います。

事務局：河合委員に委員長をお願いすることで、皆様、ご異議ございませんか。

(異議なし)

副委員長：ご異議もないようですので、河合委員に委員長をお願いします。ここからは、委員長に議事進行をお願いします。

委員長：それでは、議事を進めさせていただきます。協議事項1「前回の議事録の確認について」事務局から説明をお願いします。

館 長：2月7日に令和4年度第3回目の図書館協議会を開催した時の議事録案を今回の協議会の開催通知に同封しておりました。何か修正事項等

はございましたでしょうか。

委員：私の自己紹介の箇所で、高野山大学の仏教文化研究所と書いてありますが、正しくは密教文化研究所でございます。

館長：この部分を修正し、図書館協議会のホームページで議事録として公開させていただきます。

委員長：では引き続いて、協議事項2の令和4年度田原市図書館事業評価(案)について、事務局から説明をお願いします。

館長：(配布資料に基づいて説明)

委員：質問ですが、4ページの親子交流館との連携について、親子交流館が図書館の貸出を受けていないのかと思うのですが、自前で絵本を持っているから借りないということなのか。

館長：今回の数字は、親子交流館への団体貸出ではなくて、親子交流館へ来館する利用者個人への貸出数となる。月に一度、出張図書館のような形で、親子交流館に来館する人たちに借りられるような絵本やDVD、お母さん向けの雑誌などを持って行って貸出サービスを行っている。親子交流館がオープンする際に出張図書館の要望があって始めたが、親子交流館では遊具などがたくさんあり、来館者はそちらで遊ぶという目的が強い様子で、その場で絵本を見てくれたりと、図書館のPRにはなっていたのかもしれないが、貸出冊数にはあまり繋がっていない。

委員：その際は貸出カードが必要なのか。

館長：図書館と同じで、カードを忘れた場合も氏名や住所等を紙に書いてもらえれば貸出を行っているし、カードをつくっていない人には発行もできる。

委員：紙に書くのが面倒で、借りないのではないか。

委員：この時代なので、カードはアプリ化したほうがいいのではないか。

館長：図書館システムの更新が5年以上出来ていないので、新しいサービスへの対応が遅れている。次のシステム更新では、スマホのアプリで貸出ができるように機能を盛り込みたいと考えている。

委員：それは一般的な貸出方法なのか。

館長：最近の図書館では、できるところが増えている。豊橋市ではできるようになっている。

委員：3ページの基本方針2の子ども読書関係のところで、不読率が増えている。全国的な数字では、田原の子どもは本を読んでいるほうなのか。

館長：そうですね。特に中学生は全国平均より良い数字が出ている。

委員：それはコロナの影響があったのか。最近新聞に載っていたように、勉強意欲がなくなっている子どもが増えたと報道されていて、危機的な状況だと思った。ゲームとの関係もあるのか。知人の中学生の子どもは朝から晩までゲームをしていて心配だと言っている。どういう大人になるのか本当に心配だ。部活が民営化されて、部活に参加するかしないかも、コストがかかってくることも心配という声を聞いた。

委員：今年からアンケートがタブレットからの回答になったことも影響しているかもしれない。小学校4年生くらいだと、各校で朝の読書をやっている学校も多いので、そこで本を読んでいる。紙に書くアンケートだと、読んでないと書いている児童に教師から「朝の読書で本を読んでいるよ」と指摘して気づく場合もあるが、タブレットだとそういうことが無く答えてしまう。

全国的にも不読率が増えているということだが、朝の読書の時間もコロナの影響で減っているようには思えない。タブレットが配布されていて、本で調べるより、タブレットで検索したほうが面白いとか、そういう影響がある気がする。

朝からゲームをする、勉強意欲がなくなっているというのは、コロナ禍で休業が長かったことが影響して、気力自体がわからない、意欲が低下してしまっているように感じる。だんだん復活していってくれればいいと思う。

委員：赤羽根図書館の複合化についてはどうなっていくのか。こういう問題は、住民が知る時にはもう話が進んで決定していて、あとで住民が意見を言っても反映されないという危惧がある。もう一つ、視察受け入れが増えたということだが、これはどの地域からどんな目的で視察に来るのか。

館長：赤羽根図書館の複合化については、赤羽根市民センターや図書館の入っている文化会館の老朽化が進んでしまっていて、それをどうするのかという課題について検討されている段階ですが、まだ何も決まっていない。図書館としては、赤羽根地域に図書館機能をきちんと残す方向で進めたいと考えている。

視察については、コロナ禍で減少していた件数が昨年度は復活してきた。新しく図書館の建築を予定している自治体が、建築やサービスを参考にすることを目的に視察に来るケースが多い。また、図書館情報学を教えている大学の先生が視察に来ることもある。

委員：ボランティアのアンケートの回答が女性ばかりというのが前回から気になっていた。男性でも興味のある人が多いのではないかと。指標については、ボランティア養成講座の実施となっているが、もう少し KPI 的に、「男性のボランティアを何人入れる」とかにしてもいいのではないかと。やはりこのアンケート結果を見ると、ボランティアの人材が固定化してきていることがわかるので、多様化やダイバーシティーの観点からも、男性に照準を絞って展開していくのも一つなのかと思う。ボランティアをやりながら自分にも為になる要素があると入りやすいのではないかと。

委員：他の自治体で本の修理ボランティアをやっているのは男性が多い。図書館の一室がボランティアルームになっていて、男性ボランティアが黙々と修理をしている。ただ、修理の技術を教えてくれる人があまりいない。すごい技法を教わりたいわけではなくて、専用のテープや糊で修理できる本はたくさんあるので、男性にもやってもらえるのではないかと。

委員：男性はどうしてボランティアに参加しないのか。ジェンダーや平等のことを考えると問題は根深いのではないかと思う。社会的な性別役割分担が影響しているのではないかと。ボランティアは女性、男性は自治会役

員、定年後はそういうところに行くというようなアンコンシャスバイアスがあるのではないか。

委員：日本ではボランティアは無償労働行為と定義づけられてしまっているが、ナンセンスである。そのためにボランティアが増えない。病院のボランティアを20年やっているが、男性はほぼいない。男性は仕事をあてがわないと動けない。これをしてくださいと、すること（do）がないといけない。病院ボランティアはbeingな存在、社会性のある医療者以外の存在。ただ、普通の人はどこにいればいいのか、男性は特にできない。仕事があってそこに対する評価が無いと苦痛になってしまう。男性がボランティアに入るのは日本ではハードルが高い。

館長：図書修理だとか、豊中市でやっている、地域の古い写真を集めて、それと同じ角度で現在の風景を撮影してアーカイブシステムに搭載していく市民エディターとか、学びにつながると感じてもらえるような内容で募集してもいいのかもしれない。

委員：ある古本屋で、こんな気持ちになる本を読みたいといったアバウトなリクエストがあって、店主が選んで本を送っている。男女問わず、ある程度いろんな経験をした人にこんな本を読みたいとか、こんな気分になりたいというリクエストに対して本をおすすめする。ナレッジバンクみたいなボランティアがあってもいいのではないか。

館長：来館者アンケートでも、自分の名前を伏せて本の感想を誰かに伝えたいという要望がありました。前にも一箱本棚のような感じで、オススメの本を選んでもらって展示したこともあった。そのような参加型の読書案内をやってもよいのかもしれない。

委員：朗読なんかの場合は男性の声は安心できる声だと思う。そういう場があってもいい。

委員：男性の方で読み聞かせをする人もいる。

館長：男性にボランティアに入っていただくことを目標にして、職員からもアイデアを募りたい。

委員長：では、次の議題の「令和5年度田原市図書館事業計画（案）」について  
お願いします。

館長：（配布資料に基づいて説明）

委員長：それでは、本年度の事業計画（案）についてご意見はございますか。  
次に、「その他」ですが、事務局や委員の皆さまから何かございますか。

委員：（配布資料などを説明）

委員長：それでは以上で、本日の議事は全て終了しました。  
ご協力ありがとうございました。  
これもちまして、令和5年度第1回田原市図書館協議会を閉会とさせていただきます。